

令和2年度

新潟市立幼稚園・小・中学校授業改革パイロット校園事業 実践事例

総合的な学習の時間における探究の過程の質的向上

探求的な学習のプロセスを重視した総合的な学習の時間の単元づくり、授業づくり

新潟市立小針小学校 校長 長谷川 豊

1 「総合的な学習の時間における探究の過程の質的向上」における本校の課題

総合的な学習の時間において、これまで小針小学校では地域の「食」を中心に活動を展開してきた。それぞれの学年で取り組んだ食に関わる成果物については、地域の方々からも一定の評価を得ている。一方で教師にとっても、子どもたちにとっても優れた成果物を作り上げることで体が目的になってしまっている傾向がある。「活動あって、学びなし」とならないためにも、質の高い探求的な学習活動を展開し、子どもたちが自身の生き方を見つめ直す時間としていく必要がある。

2 研究実践の主な内容

- (1) 子どもたちが実社会の中から切実感のある課題を見つけることができるように、単元づくり・小単元づくりにおける、課題の設定の仕方の工夫を行う
- (2) 育成を目指す資質・能力を確かに育むために、45分間の授業（整理・分析の場面）で、教師の働き掛けを明確に設定する
- (3) 授業づくりに取り組む教職員の協働性を高める。学年の枠を超えた少人数グループで事前・事後の検討も含めた授業研修を行う

3 実践事例について

(1) 単元名 6年 総合的な学習の時間 「小針のつながり再生プロジェクト」

(2) 探究課題 身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々

(3) 単元目標

小針で暮らす高齢者の方とかかわったり、交流の場をつくったりする活動を通して、地域の高齢者の暮らしを支える取組に尽力する方々の思いや地域の交流の場を継続する意味に気付き、コロナ禍の中、世代を越えてまちに住む人々が交流していくために地域の一員として自分にできることを考え、行動しようとする。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・地域で起きている人口減少と少子高齢化の現状と、新型コロナウイルスの影響によって高齢者の暮らしを支える取組の実施が困難になっている状況に気付いている。・地域には、社会の状況に合わせて様々な工夫をすることで、高齢者の暮らしを支える取組をしている方々がいることを理解している。・高齢者の交流の場をつくる活動を通して、高齢者だけではなく、多世代が関わりをもち、地域全体の交流を目指し、継続することに意味があることを理解している。	<ul style="list-style-type: none">・西区長や行政の担当者へのインタビューから、高齢者を取り巻く状況をつかみ、交流会の実施のための課題や必要な取組について、見通しをもっている。・地域の交流の場でこれまでに行われてきた様々な取組を分類し、人と人との距離や交流の仕方に着目して、比較することで、自分たちが実施する交流会のプログラムを決定している。・アンケートで収集した情報をもとに、自分たちが実施した交流会の課題を明らかにして、交流会を継続していくための改善点を選択している。	<ul style="list-style-type: none">・地域の交流の場をつくる活動を通して、高齢者の暮らしを支える行政の方々に関わりながら、現在の状況に合った最適な実施方法を追究しようとしている。・高齢者の方が交流できる場を目指して、友達と計画を実施するための話し合いを繰り返し行い、利用者の立場になり、実施しようとしている。・地域における交流の場づくりの活動を行うことで、高齢者の交流の再開に役立つことができた自分自身に気付き、地域の一員として世代を越えた交流のために継続してできることを考え続けようとする。

(5) 単元の計画

8月 I 私たちが小針のまちでできることは何だろう?(5時間)

- 活動① これまでの総合的な学習の時間を振り返り、総合的な学習の時間の学び方をつかむ。
活動② 身の回りの疑問や問題に感じていることを出し合い、小針のためにできることを見付ける。
活動③ 集めた情報を基に何ができるかを話し合い、これからの活動を考える。

<学習のねらい>

これまでの総合学習を振り返ることで、「地域のために活動する学習」、「クラスの仲間や地域の方と協力して行う学習」であることに気付く。自分たちの身の回りで起きている新型コロナウイルスによるかかわり合う機会の減少の問題が小針でも同様に起きているのか調べたいという思いをもつ。

9月 II 関わり合う機会を増やすためにできることは何だろう(13時間)

- 活動① 西区が抱える課題や取組を知るために、アンケートを用いて家族を対象に調査したり、西区長から行政の立場として把握している西区の現状について聞いたりする。
活動② 集めた情報から、今後自分たちが解決すべき課題とその方法を決める。
活動③ 高齢者の方々のかかわりの機会をつくる活動で何を行うべきか、活動の種類とその順序を考え

<学習のねらい>

西区長へのインタビューから、小針では全国の傾向と同様に少子高齢化が進んでいることを知る。合わせて、新型コロナウイルスの影響により、高齢者の関わりをつくる事業の実施が困難となっていることに気付く。その上で、地域の高齢者の暮らしの問題に対して、現在の状況に適した交流の場を設定することで、高齢者の方々がかかわり合う活動に取り組みたいという思いをもつ。

10月 III 小針のまちでつながろうプロジェクトを実現するために必要なことは何だろう(15時間)

- 活動① 自分たちの交流会で参考にすべき取組を見付けるという目的をもって、西区役所健康福祉課からいただいたパンフレットをもとに、過去に実施されてきた「地域の茶の間」の取組について調べ、「お話」「運動」「ゲーム」「物作り」等の視点で分類する。
活動② 地域の高齢者を対象にしたアンケートを分析し、交流会を開く上で年代別にどのような活動が好まれる傾向があるのか分析する。
活動③ 現在の状況において、自分たちが実施したい中心となる活動を「安心」「交流」「接触」という3つの条件で比較し、実現の可能性があるものを選択する。<本時>
活動④ 自分たちで選択した取組を健康福祉課、社会福祉協議会を含む、関係機関の方に提案し、それぞれの取組の実現の可能性について協議を行い、決定する。

<学習のねらい>

健康福祉課の方からいただいた資料から、地域の茶の間で行われてきた活動や、地域の茶の間を実現するための課題やプロジェクトの進め方を知る。その上で、自分たちが実施したい活動を3つの条件で比較することによって、現在の状況における最適な活動を行っていくための見通しをもつ。

11~12月 IV 小針のまちでつながろうプロジェクトを実施しよう(15時間)

- 活動① 「小針のまちでつながろうプロジェクト」の計画(プログラム・役割分担等)を立てる。
活動② クラスで各プロジェクト(会場設営・広報係・道具準備・時間管理・衛生管理・接客など)の分担を行い、それぞれの準備を進める。
活動④ 決定した活動内容をもとにプレ交流会を行い、関係者の方々からいただいたアドバイスもとにして、各プロジェクト単位で修正点を見付け、計画の見直しを行う。
活動⑤ 開催日を2回に分け、「小針でつながろう会」を実施する。
活動⑥ 参加していただいた方には、活動内容に関わるアンケートを書いていただく。

<学習のねらい>

行政の方々と共にプロジェクトを計画し、実施することで、地域の高齢者の暮らしを支える活動を行う方々の知識や企画の進め方、仕事に対する真摯な態度を感じ取る。合わせて、新型コロナウイルスの影響がある中で、話し合いを重ねる過程において、自分たちが理想とする実施したい活動と実際に感染症対策に配慮した上で実施できる活動との隔たりに気付き、参加してくださる一人一人が安心して活動を行うための仕組みづくりの重要性を理解する。

1月~2月 V 小針のまちでつながろうプロジェクトを続けるために(12時間)

- 活動① 参加していただいた方々のアンケートをもとに、これまで行った活動によって、課題の解決に近づくことができたか話し合う。
活動② 健康福祉課の方に、地域の方と協働して、持続可能な「小針のまちでつながろうプロジェクト」の提案を行う。
活動③ これまでの活動を振り返り、これからの自分が小針で続けていくことについて考え、伝え合う。

<学習のねらい>

「小針でつながろう会」に参加した方々からいただいたアンケートの反応をもとに自分たちの活動の意味や価値を振り返る。自分たちの地域にはつながりをつくろうと努力している方々がいること、また自分たちの思いや願いを実現するためには多世代が協働し、参画する必要があることに気づき、これからもまちのために自分ができることを続けていこうという思いを高める。

(6) 本時の計画 ((14時間/全60時間))

(1) 本時目標

交流会で実施しようと考えている活動内容のよさと課題を比較したり、「安心」「交流」「接触」の3つの条件を基に交流会で実際に行う活動内容を選択したりする活動を通して、交流とは、お互いに言葉を交わしながら仲良くなっていくことだと気付く。

(2) 本時に向かう児童の実態

健康福祉課の方からいただいた手紙で示された3つの条件を意識して、個人でどんな活動を行うべきなのかを判断することはできている。しかし、3つ条件のうちの「交流できる(参加者どうしが関われる)」という条件の具体的な姿については、一人ひとりがもっているイメージに隔たりがある。

(3) 本時のしかけ

交流とはお互いに言葉を交わしながら仲良くなっていくことだと気付くことができるように、ピラミッドチャートで話し合った際に迷った点があったグループを取り上げ、「交流ができる」とはどんな様子なのか、話し合う時間をとる。

(4) 本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応	■評価・〇手立て・<しかけ>
<p>導入</p> <p>1. 前時の学習を振り返り、本時の課題を確かめる。(2分)</p>	<p>C1: 前は、自分たちでどの活動をするよいか考えました。</p> <p>C2: 今回は、交流会で行う活動は何がよいかについて話し合います。</p> <p>T1: 今日の学習課題は、</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><学習課題> 交流会で行う活動は何がよいか?</p> </div> <p>で、よいですか。</p> <p>C3: はい。いいと思います。</p>	<p>○子どもたちが学びを自分たちで自覚して進めることができるように、日直が自分の言葉で本時の学習課題を学級に伝える。</p>
<p>展開</p> <p>2 学級全体で活動内容の候補について話し合う。(15分)</p> <p>3. ピラミッドチャートを用いて、グループで考えを交流する。(10分)</p>	<p>T2: それでは、皆さんの考えを教えてください。</p> <p>C4: 私はマスクケース作りがいいと思います。おしゃべりしながら、簡単に作ることができるからです。</p> <p>C5: 私は、折り紙がいいと思っています。参加者同士が折り方を教え合っかかわることができるからです。</p> <p>C6: 私は、トランプがいいと思います。トランプはたくさんの遊び方があって、選んでもらえるからです。</p> <p>C7: ぼくもトランプがいいと思います。トランプは誰でも簡単に安心してできるからです。多くの人とできるよさもあります。</p> <p>C8: ぼくは将棋がいいと思います。トーナメント戦にすれば仲良くなることができると思うからです。</p> <p>C9: 私はカルタがいいと思います。ルールを説明しなくても、みんなが分かる方がいいところだと思います。</p> <p>C10: 私はラジオ体操がいいと思います。どんな人にもできる運動だと思うからです。でも、かわりがありできないとも思っています。</p> <p>C11: 私は、オセロがいいと思います。ゲームで脳の運動になるからです。でも交流が少し少ないと思っています。</p> <p>T3: なるほど、たくさんの候補が出てきたね。では、ここまでの話し合いで2つに決めることってできそうですか。</p> <p>C12: 難しいと思う。ピラミッドチャートを使うといいかもしれない。</p> <p>T4: では、ピラミッドチャートを使う時の条件はどうしますか。</p> <p>C13: 手紙にあった「安心」「交流」「接触」の3つの条件で比べたらいいと思います。 (ホワイトボードでの3人組での話し合い)</p> <p>T5: それではある程度の結論は出せましたか。結果を伝え合う前に確かめた方がいいとか、悩んだところがあったグループってある?</p> <p>C14: 少しなやんだところがあります。それは、オセロについてです。オセロは交流できるかどうかについて話し合いました。オセロは、2人でしかできなくて、会話の少なさから、上に上げてよいか迷いました。</p> <p>T6: 他のグループは、オセロってどうなっている?</p> <p>C15: 私たちは、オセロは交流できていると考えました。それは、</p>	<p>○子どもが考えの根拠を意識しながら、話し合いに参加することができるように、発表された意見についての「よさ」と「課題」に分けて板書する。</p> <p>○黒板で子どもの発言を整理する際に、多くの子どもたちが重要だと感じている事実を可視化するために、発言が多い部分については、アンダーライン等で強調して表すようにする。</p> <p>○3つの条件を意識して、話し合うことができるように、ピラミッドチャートを準備しておく。</p>

<p>4. 「交流」のイメージについて話し合う。(13分)</p>	<p>話しながらできるからです。 C16: ぼくらは、交流できると思いました。人数というより、やりながら話ができる方が大切だと思っています。 T7: あるグループでは、複数の人がかかわることを交流と考えているんだね。だけど、あるグループでは、一対一でも会話ができれば、交流はOKと考えているんだね。交流のイメージが違うのかもしれないね。ちょっと3人組で、お互いが考えている交流ってどんなイメージなのかを話し合えるかな。 T8: 交流ってどんなイメージでしたか？ C17: ゲームやもの作りをしながら、会話をする事。 C18: そして、仲良くなれたらもっといいと思う。 T9: 交流について、話し合う前に比べて、かなりイメージがくっきりしましたね。他の活動については、交流って本当にクリアできているか確かめられますか。 (再度、ピラミッドチャートを見直す) C19: 少し結果が変わりました。ピラミッドの上まで上がっていたけれど、見直したものもありました。 T10: 今日話し合ってきて、どんな活動はできそうだなと感じていますか。 C20: トランプやカルタなど、会話をしながら複数の人が参加できるものについては、やることができそうだと思います。</p>	<p>ピラミッドチャートで話し合った際に迷った点があったグループを取り上げ、「交流ができる」とはどんな様子なのか、話し合う時間をとる。 <しかけ></p> <p>○根拠を明確にして、話し合うことができるように、3人でホワイトボードを準備しておく。</p>
<p>終末 5. 学習を振り返る。(5分)</p>	<p>T11: では、最後に振り返りを書きましょう。 <振り返りの視点> ①分かったこと ②学び方でよいと思ったこと ③自分に生かしていきたいこと</p>	<p>○自らの学びを省察することができるように、振り返りの3つの視点を示す。</p>

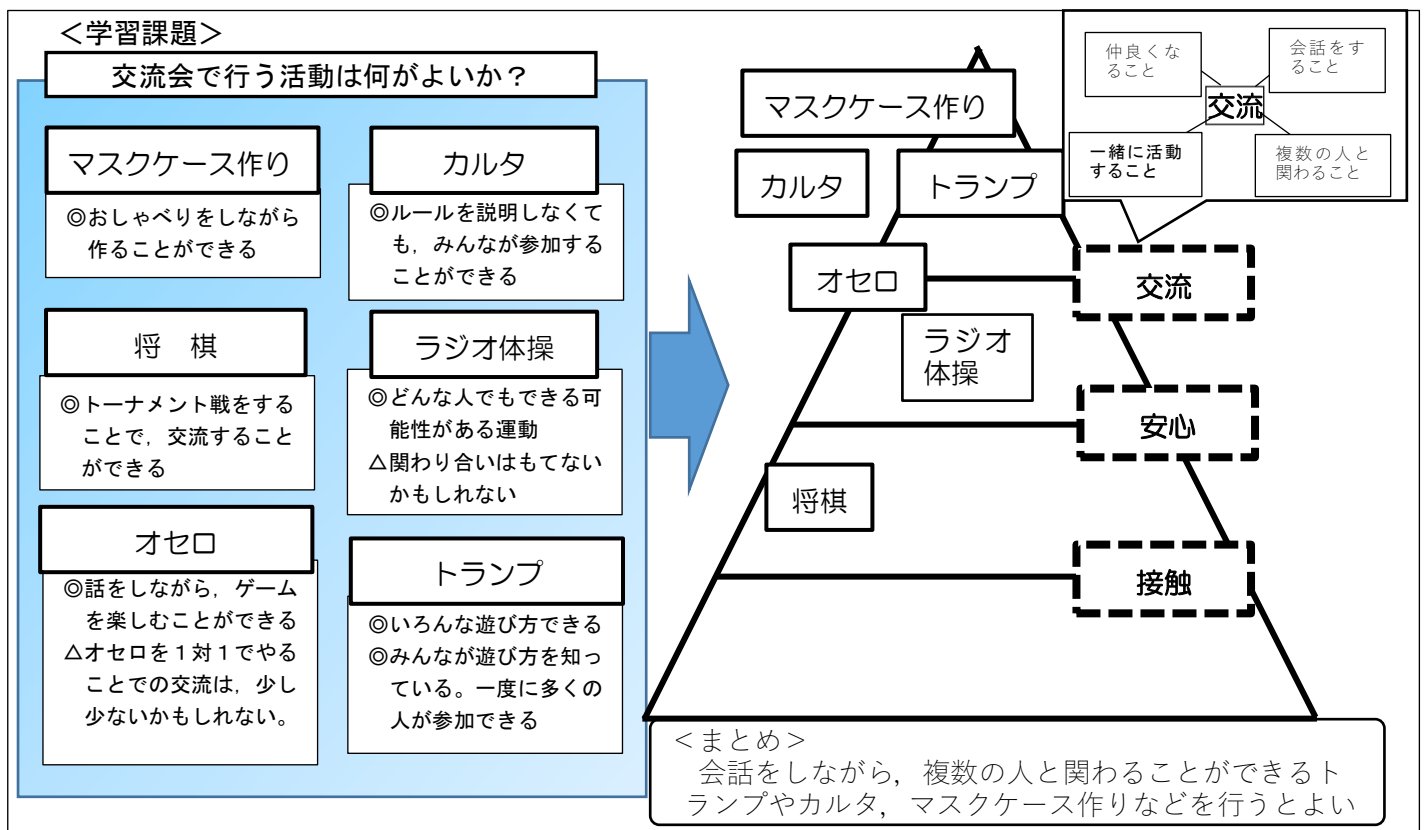
(7) 本時の評価規準

「交流ができる」とはどんな様子なのかを話し合う活動を通して、交流をするということは、一緒に活動を行うだけではなく、お互いに言葉を交わしながら仲良くなっていくことだと気づいている【発言・振り返りの記述】

(8) 参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』

(9) 板書計画



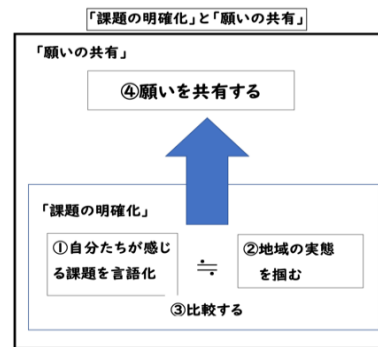
4 研究実践の具体

(手立て1) 子どもたちが実社会の中から切実感のある課題を見つけることができるように、単元づくり・小単元づくりにおける、課題の設定の仕方の工夫を行う

今年度は新型コロナウイルスの影響がある中、外部とのかかわりをもつことができない、本物に触れることができないなど、直接的な体験の機会が明らかに減少した。従来のように子どもたちが地域の実態をつかみ、認識のズレをきっかけにして課題を顕在化していくことが難しかった。そこで今年度は、以下のような方法で課題を顕在化していくことにした。

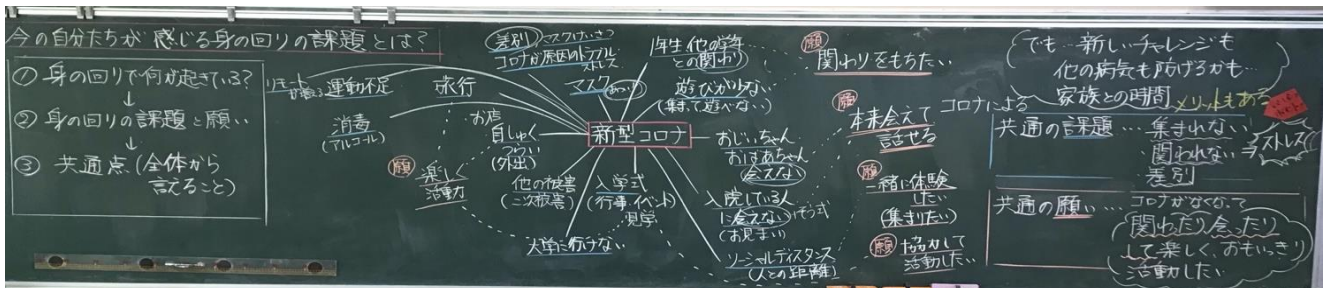
「課題の明確化」と「願いの共有」の手順

- ①自分たちが感じている課題を言語化する
- ②データや詳しい方の話から、地域の課題を顕在化する
- ③予想と事実を比較する
- ④願いを共有する



①自分たちが感じている課題を言語化する

まずは、今の自分たちが感じる身の回りの課題について話し合うことにした。すると、自分たちが感じている課題として、新型コロナウイルスの影響によって、「集まることができない」、「関わることができない」ことを不便に感じていることが分かってきた。また、そのような問題状況に対して、「集まったり、人と会ったりして、楽しく思いっきり活動したい」という思いをもっていることが分かった。



授業板書「身の回りの課題とは？」

②データや詳しい方の話から、地域の課題を顕在化する

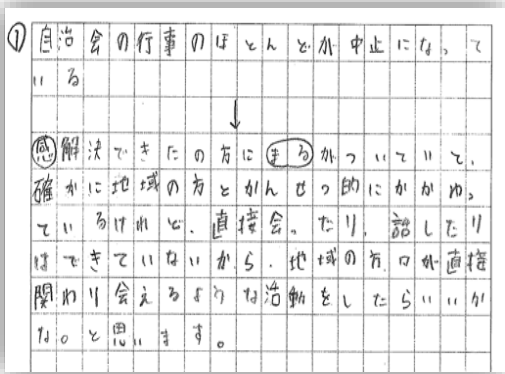
コロナ禍で容易に外に出ることができないからこそ、まず、子どもたちは自分たちが感じる現在の身の回りの課題について考えた。次に、地域の方々も同じように困り感を抱えているのではないかと予想を立てた。そこで、地域の方々へのアンケート調査を実施し、西区長に現在の区の様子を教えていただけるように依頼を行った。



アンケートの分析



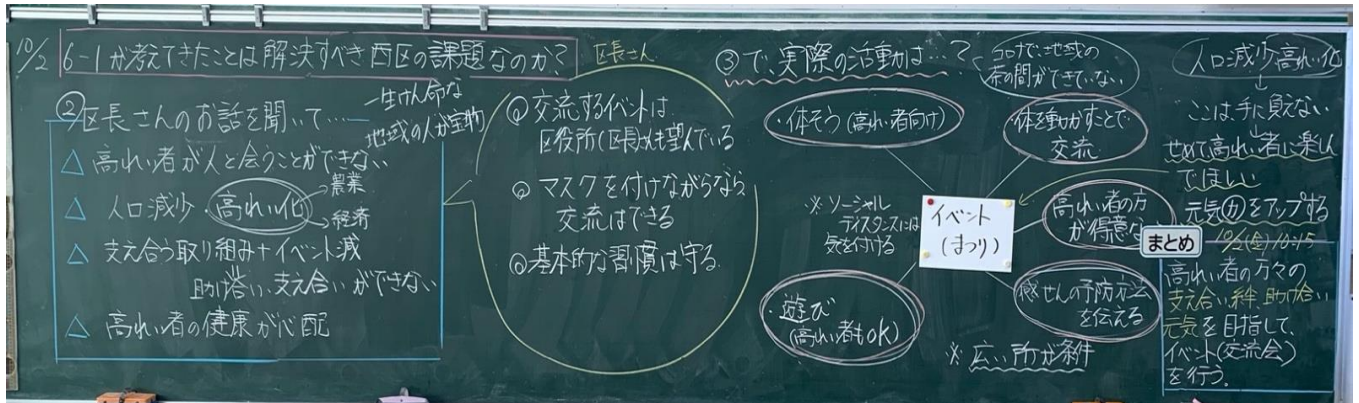
西区長さんのお話を伺う会



児童の振り返り

③予想と事実を比較する

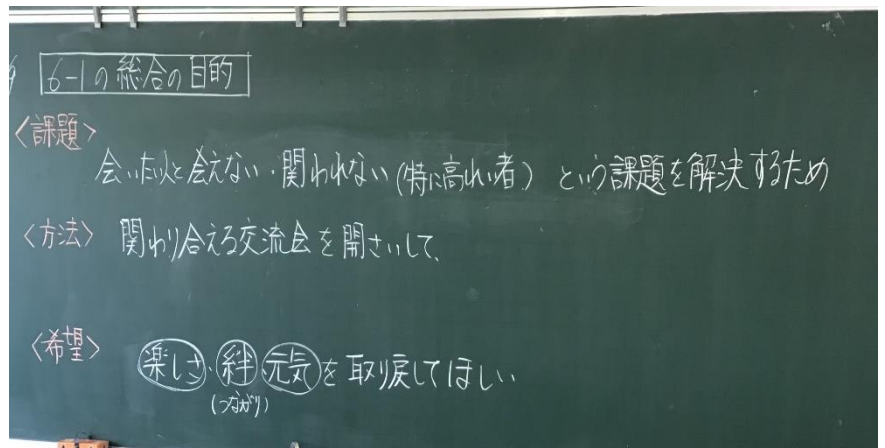
アンケートで集まった情報を分析し、区長さんから直接お話を伺った上で、「6-1が考えてきたことは解決すべき西区の課題なのか？」ということについて話し合いを行った。「自分たちが取り組もうとしていることは、自分たちだけが考えている課題ではなく、本当に社会から必要とされている活動である」ということへの確信をもつための時間にすることを重視した。



授業板書「解決すべき西区の課題なのか？」

④願いを共有する

自分たちが感じている課題と地域の課題を照らし合わせることで、自分たちができることはどのようなことで、自分たちが本当に解決すべき課題は何なのかを確認して行った上で、問題状況に対する個々の願い(希望)を言語化した。そうすることで、クラスとしての活動の目標を明確にもつことができた。



授業板書「6-1の総合の目的」

(手立て2) 育成を目指す資質・能力を確かに育むために、45分間の授業(整理・分析の場面)で、教師の働きかけを明確に設定する

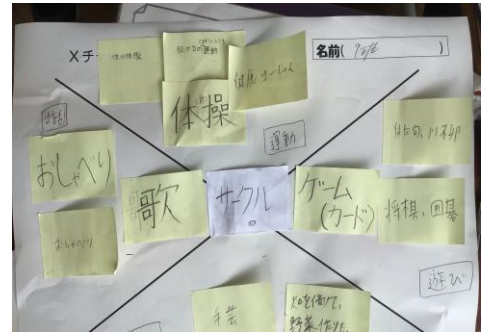
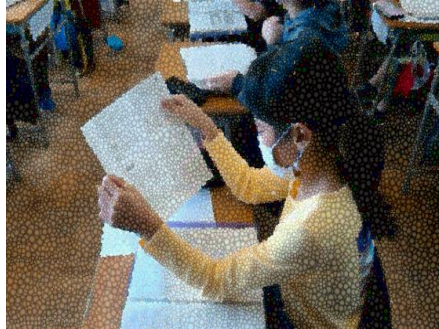
育成を目指す資質・能力を確かに育むためには、1時間1時間の授業を丁寧に積み重ね、子どもたちが概念的知識を得ることができるような授業をデザインしていく必要がある。教師は、本時目標を意識し、1時間の授業で核となる学習場面を生み出すための働き掛けを明確に設定する。

「教師の働き掛け」を設定する手順

- ①子どもたちが多面的に情報の収集を行う
- ②根拠を明確にして、個々が判断を行う
- ③本時目標に照らし合わせ、働きかけを設定する
- ④構造的な板書(思考ツール)を用いて、捉え方のズレを取り上げる【教師の働きかけ】

①子どもたちが多面的に情報の収集を行う

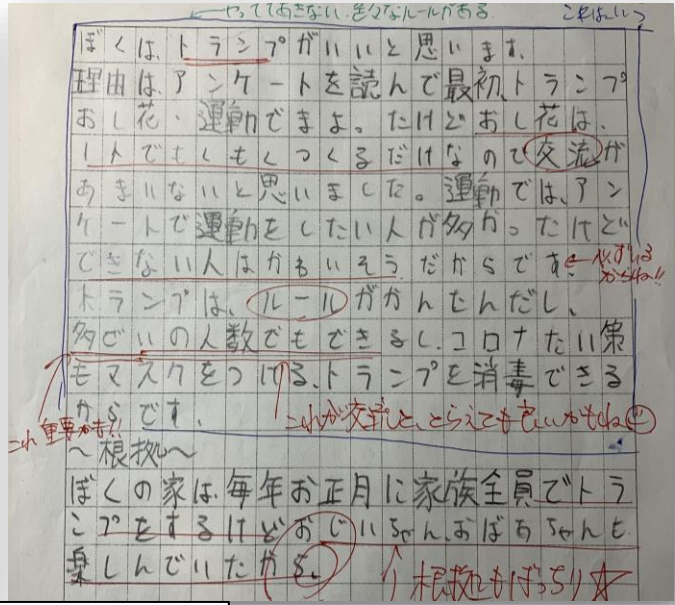
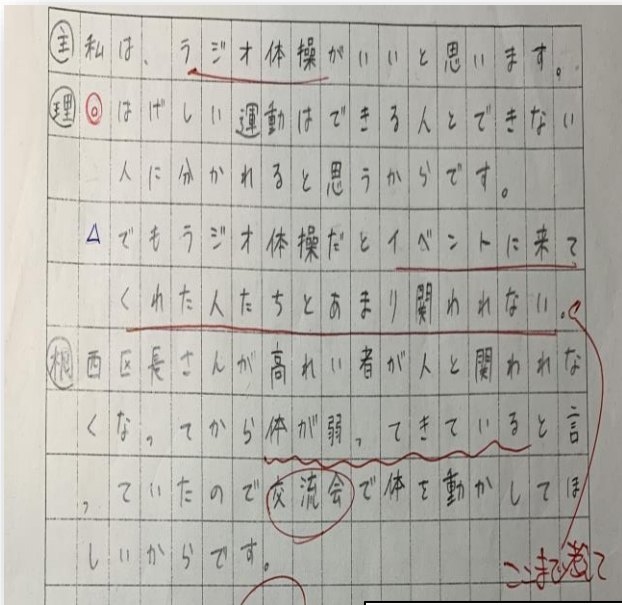
「整理・分析」の場面で、子どもたちが根拠をはっきりとさせ、自信をもって自分の考えを語ることができるよう、「情報の収集」で材料をしっかりと集めておく必要がある。具体的には、自身の生活体験を想起したり、実物を見たり、話を聞いたり、資料を読んだりすることで、判断に必要な材料を集めた。



アンケートやリーフレットをもとに情報を集め、エクスタチャートに整理する

②根拠を明確にして、個々が判断を行う

「情報の収集」の過程で集めた情報をもとにして、交流会で行うべき内容を個人で判断できるようにした。今回は、「自身の生活体験」+「地域のご高齢の方々へのアンケート」+「先行実施されている地域の茶の間のパンフレット」をもとにして、交流会で行うべき内容を個人で判断を行った。



個々の判断を書き表した学習シート

③本時目標に照らし合わせ、働きかけを設定する

一人ひとりの子どもたちが、情報収集を行い、課題に対する個人の考えを根拠をもって伝えられるように文字言語で記録をする。教師は、個々の考えを座席表に記録し、学級全体を俯瞰して、本時目標に迫る考え方が無いかを読み込み、働き掛けを設定した。

本時目標に照らし合わせ、働き掛けを設定する

- ①個々の考えを座席表に記録する。
- ②座席表全体を俯瞰し、学級全体として何を感じているのか、本時のねらいに迫る考え方は無いかを読み込む
- ③働きかけを設定する。

<添付資料 2> 小単元の学習活動の流れ

(1) 本時目標

交流会で実施しようと考えている活動内容のよさと課題を比較したり、「安心」「交流」「接触」の3つの条件をもとに交流会で実際に行う活動内容を選択したりする活動を通して、交流とはお互いに言葉を交わしながら仲良くなっていくことだと気付く。

(2) 座席表

黒			板		
1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15			
19	20	21			
	25				

個人の考え

(3) 本時のしかけ

<本時に向かう児童の実態>

健康福祉課の方からいただいた手紙で示された3つの条件を意識として、個人でどんな活動を行うべきなのかを判断することはできている。しかし、3つの条件のうちの「交流できる(参加者同士が関われる)」という条件の具体の姿については、一人一人がもっているイメージに隔たりがある。

<本時のしかけ>

交流とはお互いに言葉を交わしながら仲良くなっていくことだと気付くことができるように、ピラミッドチャートで話し合った際に迷った点があったグループを取り上げ、「交流ができる」とはどんな様子なのか、話し合う時間をとる。

本 時 目 標

④構造的な板書(思考ツール)を用いて、捉え方のズレを取り上げる【教師の働きかけ】

多面的に情報収集を行うことで得た情報を適切に活用して、個々が根拠を明確にもって判断をした上で授業(話し合い)を行った。この45分では、「①交流会で行うべきだと考える活動内容を伝え合う」、「②少人数グループで、多様なアイデアをピラミッドチャートで絞る」、「③全体で結果を共有する」という流れで学習活動を展開した。「③全体で結果を共有する」場面において、【教師の働きかけ】として、各グループの捉え方のズレを取り上げることで論点を焦点化し、この単元の本質である「交流」とは何なのかを考えることをねらった。

「①交流会で行うべきだと考える活動内容を伝え合う」

相互指名を用いて、個人の考えを友達から否定されることがなく伝えることができる雰囲気重視する。拡散的に話し合い、アイデアを出し切ることを目指した。



「②少人数グループで、多様なアイデアをピラミッドチャートで絞る」

ピラミッドチャート(思考ツール)を用い、「情報のつぶ」を可視化し、条件を明確に設定した上で、多くのアイデアを比較する。

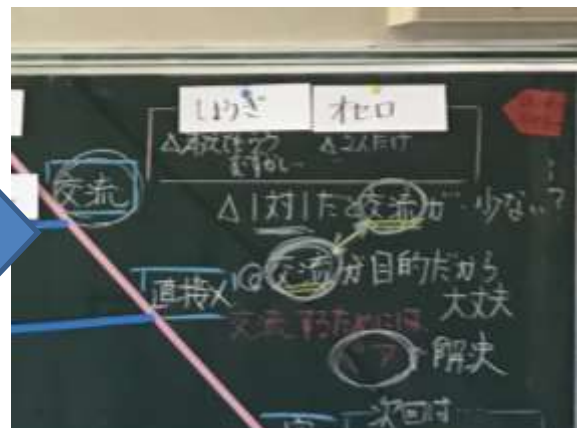


「③全体で結果を共有する」

全体での話し合いに戻った際に、各グループの捉え方のズレを取り上げる【教師の働きかけ】で、論点を焦点化し、この単元の本質である「交流」とは何なのかを考えることを目指した。



ピラミッドチャートで各班の意見を可視化



働き掛けによって焦点化された課題

(手立て3) 授業づくりに取り組む教職員の協働性を高める。学年の枠を超えた少人数グループで事前・事後の検討も含めた授業研修を行う。

①「ワイガヤタイム」を中心に共に単元をつくり、見直す

今年度は、月曜日の放課後に生活科・総合的な学習の時間を中心に、単元づくり方、学習の進め方について相談する「ワイガヤタイム」時間を設けた。そこで、子どもたちを学びの中心に据えた単元づくりを毎週行った。

②エビデンススペースで授業研究会を行う

授業研究会では子どもたちの学びの姿を基に、本時目標にどれだけ迫ることができたかについて検証を行った。タブレットを活用して子どもの姿を撮影する、抽出児童を決めて子どもの学びの姿を徹底的に文字で記録することで、子どもたちの学びの事実を基にして授業について話し合うことができたようにした。

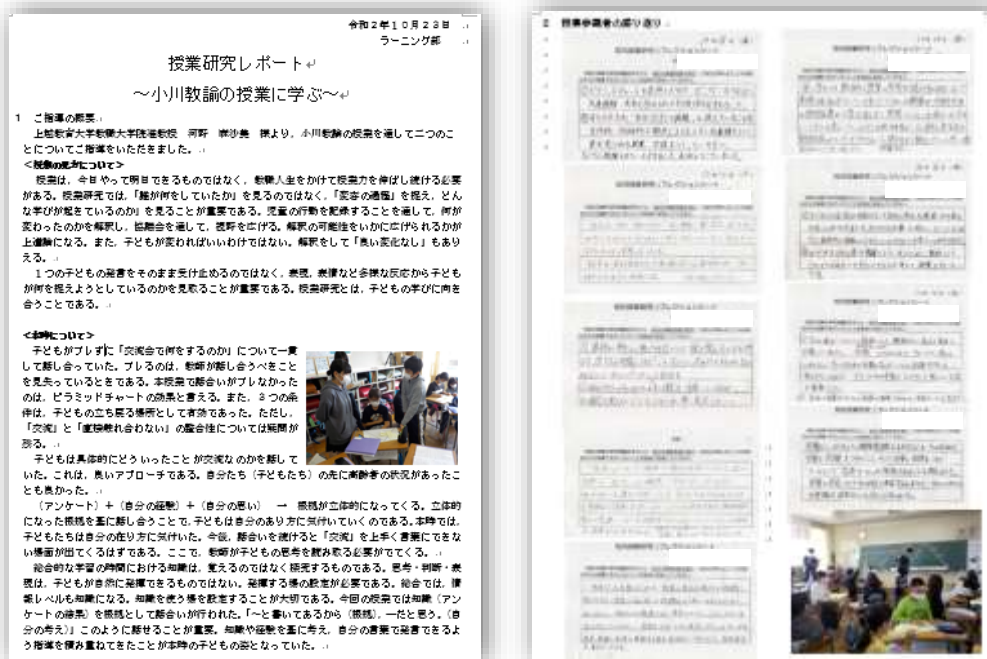
また、PMIシートを話し合いで活用することによって、先生同士が話し合いの流れを掴み、P(プラス:よくできたところ)、M(マイナス:課題)、I(インプルーブメント:改善点)について、焦点を絞って話し合うことができた。



授業研究会の様子

③研究通信で学びを共有する

コロナの影響が残る中で授業研究を継続していくため、1・2年、3・4年、5・6年の学年部単位で授業研究会を行うことにした。例えば、実践例の6年生の授業に関しては、基本的に5・6年の学年部のメンバーが事前の検討会、本時の授業、事後研究会に参加することにした。そこで、研究会の学びを限られたメンバーのものだけにすることなく、全体で学びを共有するために、研究通信を発行した。



5 成果と課題

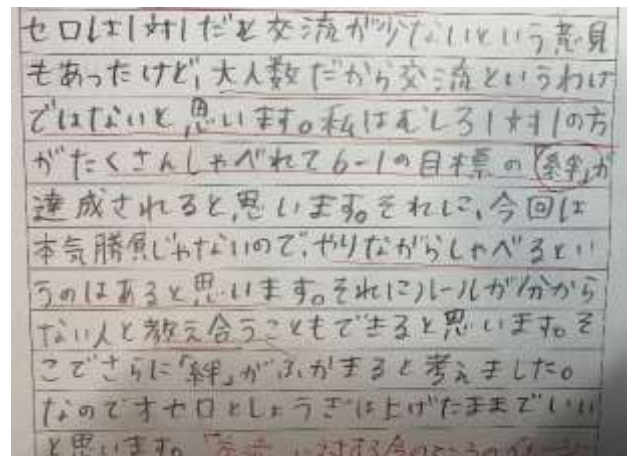
(1) 成果

○探究的な学習の質的向上

授業研究を行った6年生のクラスにおいて、質問紙調査で「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいると思う」という質問をしたところ、90パーセント以上が肯定的な回答であった。実際に子どもたちが主体となって、本気で追究できる課題を設定し、目的をもって情報を収集を行い、視点を明確にした整理・分析を行うことができた成果の表れだと考えられる。日々の授業においても、休み時間や放課後を活用して探究に取り組む姿、地域の方々と共に前向きに活動に取り組む姿から、子どもたちの探究的な学習が充実していたことが分かる。

○子どもたちの概念的知識の拡張

右の振り返りは、事例で紹介した45分間の授業後の振り返りである。「大人数だから交流というわけではないこと、むしろ1対1の方がたくさんしゃべることができて、絆が深まること、また教え合うことでさらに絆が深まること」というように、「交流」そのものの捉え方が拡張していることが読み取れる。このように、子どもたちは話合いや実際の交流会を通して、「交流」そのものの概念を更新していくことができた。



(2) 課題

△研究の成果を共有し、多くのクラスで探究的な学習が着実に展開されること

今年度、実際に研究授業を行ったクラスについては、子どもたちの発言や作り上げた成果物からも、一定程度の探究的な学習の質的な向上が示されたと考えられる。また、授業研究会での学びについても、研究通信等で共有することで、探究的な学びのポイントについて職員が学ぶ機会をもつことができた。

一方で、今年度授業を行っていないクラスについては、実際に探究的な学びが確かに学級で展開されていると言い切ることはできない。今後、教師の学びを実践に結び付けていくことが大きな課題である。

△学習者中心の授業に変化していくこと

生活科、総合的な学習の時間の授業づくりについては、学習者を中心に単元をつくっていくという理念を共有し、その具現化に向けて、職員が努力を続けている。一方で、その他の教科等に目を向けてみると、その理念をもって授業づくりが行われているとは言えない状況にある。生活科、総合的な学習の時間を教育課程の中核に据え、学習者中心の学びを日常化していくことが課題である。